

<調査の実施概要>

調査方法: WEBアンケート調査

調査期間: 2022年2月下旬

スクリーニング対象者数: 37,532サンプル

本調査: 1,500サンプル(過去1年以内の遊技経験者)

※スクリーニング・本調査いずれも性・年代の人口構成に合わせたウエイトバック集計を実施

調査エリア: 2大都市圏を中心に政令指定都市を含む道府県、その他地方を合わせた全国47都道府県

パチンコ・パチスロプレイヤー調査2022

【企画・実施】株式会社シーズ シーズリサーチ

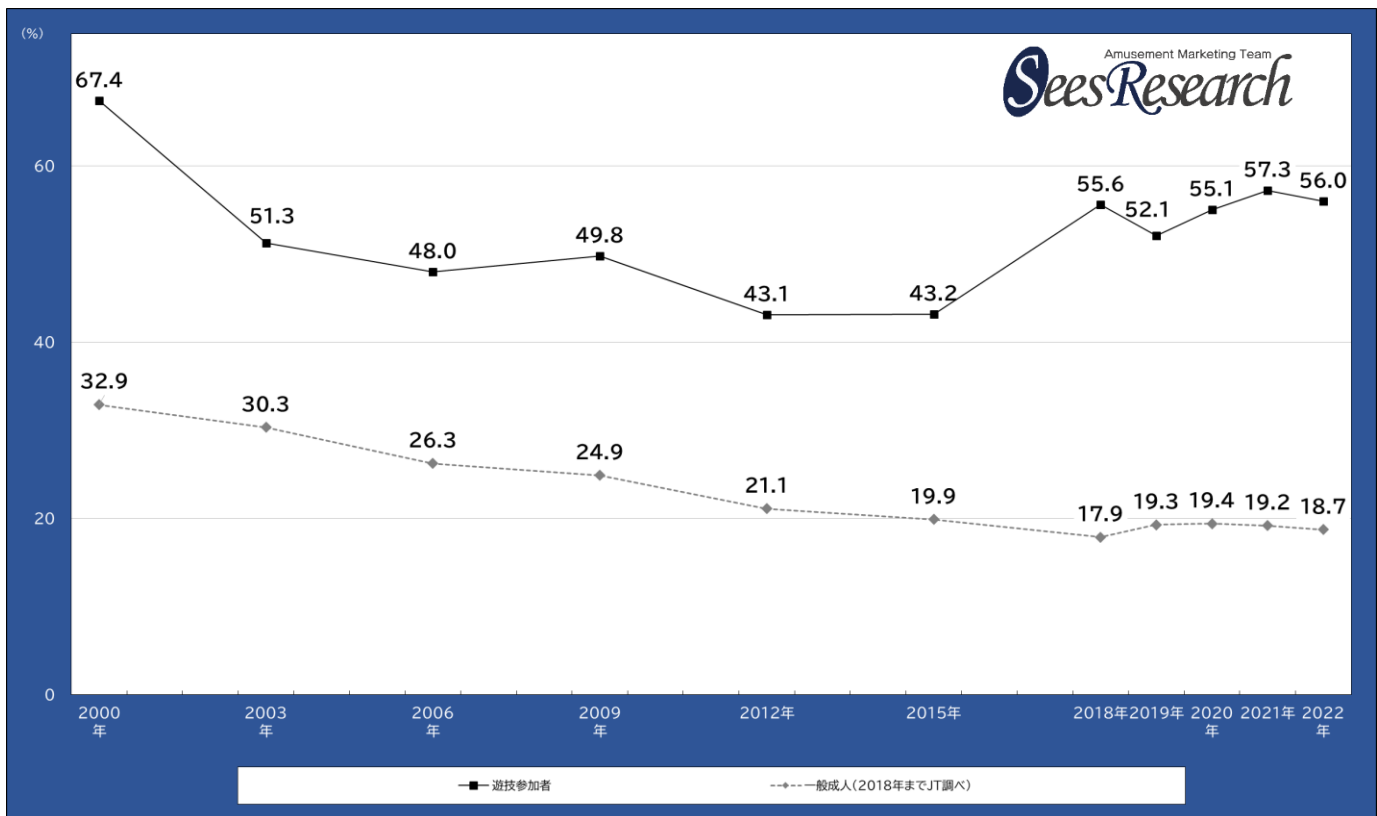
【共同調査】EBI/APJ

【パチンコ・パチスロプレイヤー調査2022 調査結果】

一般成人/遊技者の喫煙率

(20歳以上対象)

一般成人 n=36,604 遊技参加者 n=3,197



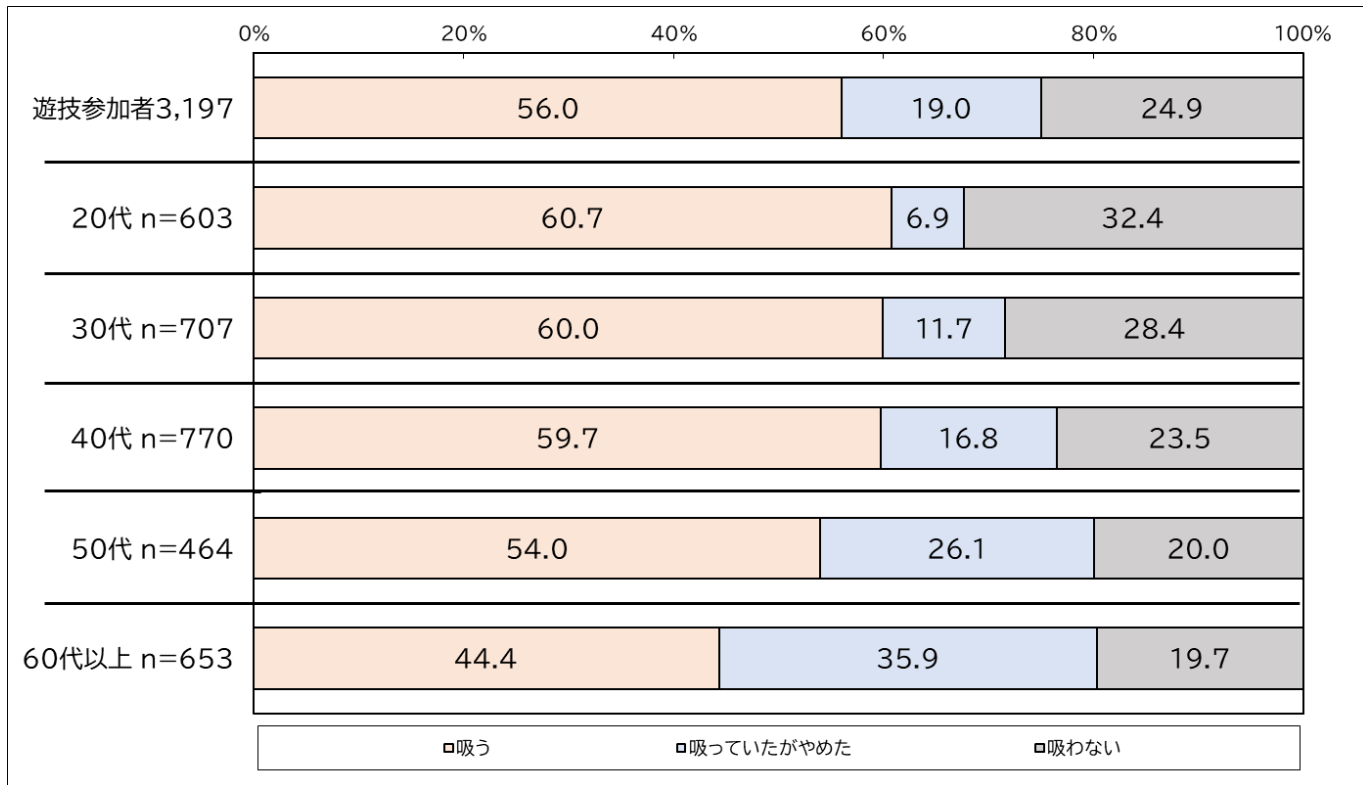
2022年の一般成人の喫煙率は、18.7%と低下し、パチンコ・パチスロ遊技者の喫煙率も56%と昨年に比べやや低下した。遊技者の喫煙率は、昨年と同様に一般成人の喫煙率に比べ約3倍で、遊技と喫煙の相関性は、引き続き非常に高いと言える。

パチンコ店の喫煙環境は、パチンコ・パチスロ遊技者の喫煙率が高いことから、店内喫煙が出来ないことで来店客の減少が心配されたが、加熱式・電子たばこの喫煙が可能なパチンコ店や喫煙ブースの設置等の対策で、喫煙者にもある程度容認されたと考える。

特に、この喫煙環境の変化は非喫煙者の遊技者にも遊技環境面で大きな影響を与えており、「煙い」「臭い」といった理由からパチンコ店を敬遠している人や離脱した人にも、今後はこの環境の変化がプラスとなり再びパチンコ店へ呼び込むきっかけとなる可能性が考えられる。

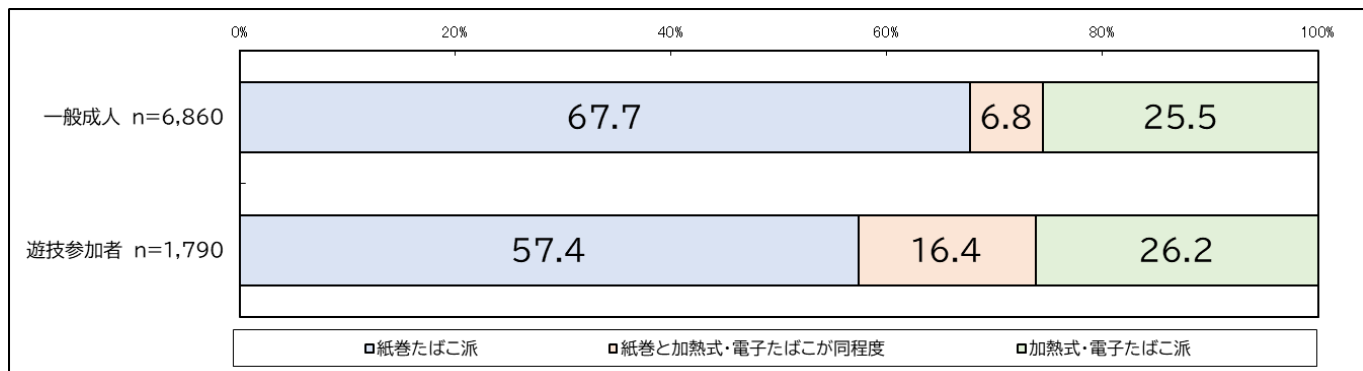
参加人口が減少するなかで、環境変化を逆にクリーンなパチンコ店のイメージを発信していくことも今後必要となるだろう。

遊技者の年代別喫煙率



年代別で遊技参加者の喫煙率をみると、20代が最も高く、年代が高くなるに低下している。年代が高くなるほど吸っていたがやめた人が多く、一般成人と同様の傾向がみられる。

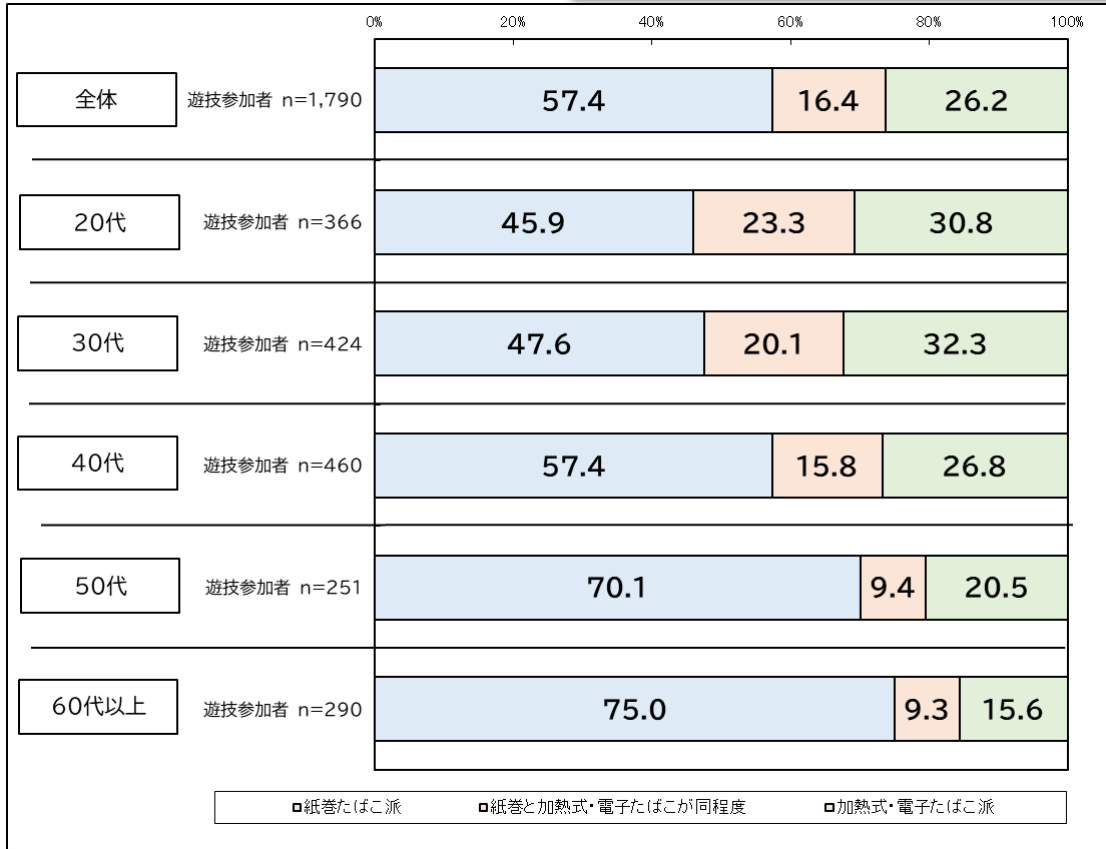
たばこの種類(全体)



遊技者のたばこの種類では、紙巻たばこを吸う人(紙巻たばこ派+加熱式・電子たばこが同程度)が、73.8%で最も多く、加熱式・電子たばこを吸う人(加熱式・電子たばこ派+紙巻たばこが同程度)は、42.6%となった。加熱式・電子たばこを吸う人は、昨年からの割合が若干増加しており、一般成人と比べても遊技者の方が、加熱式や電子たばこを吸う割合は高い。

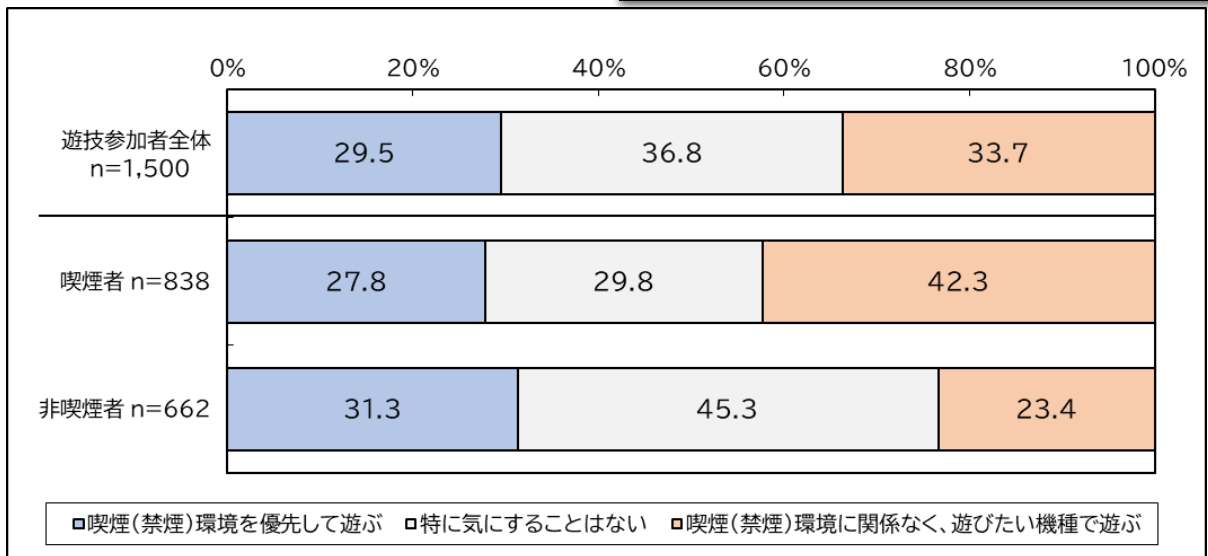
【パチンコ・パチスロプレイヤー調査2022 調査結果速報】

たばこの種類(年代別)



喫煙者を年代別で見ると、年代が高くなるごとに紙巻たばこを吸う人の割合が高く、加熱式・電子たばこを吸う人は年代が低くなるほど高くなっている。

喫煙と遊技の優先順位(全体)



喫煙者と非喫煙者の喫煙と遊技の優先順位は、喫煙者より非喫煙者の方が、遊びたい機種より遊技環境を優先して遊ぶ割合が高い。しかし、昨年の非喫煙者では遊技環境を優先して遊ぶ割合は約49%であったのに対し今回は約31%となっており、パチンコ店の喫煙・分煙化された遊技環境が浸透してきたことで、非喫煙者の中にも喫煙環境を気にせず遊べるようになったと考える人が増えたと推測される。